

会 議 録

会 議 名	令和 5 年度 第 2 回山形市少年自然の家運営協議会
開催日時	令和 6 年 2 月 1 4 日（火） 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 3 0
開催場所	山形市少年自然の家 研修室
主 催	山形市少年自然の家
出 席 者	出席委員 山口 雅和、長沼 政直、辻原 吉子、前田 浩一、黒沼 末八、 大嶋 民代、奥山 健悦、横倉 明、齋藤 和夫 欠員 1 名（社会教育委員推薦）
事 務 局	高橋 一実 教育部長 教育企画課 板垣 格 課長補佐 熊沢 圭祐 主任 少年自然の家 小関 仁美 所長 山口 雅和 副所長 伊藤 義文 副所長 森山 真澄 指導主事 横山 誠 主幹
議 題	令和 5 年度事業報告・施設利用報告 令和 6 年度運営方針・事業計画・施設利用予定 等
資 料	令和 5 年度 第 2 回山形市少年自然の家運営協議会 資料
作 成 者	主幹 横山 誠

会議経過

1 開会

2 利用団体活動状況視察

スキー場ゲレンデ：千歳小 1、2 年生

3 教育長あいさつ

教育長欠席のため教育部長よりあいさつ

4 運営協議会長あいさつ

5 協議

少年自然の家条例施行規則により、黒木会長を議長に選任

(1) 令和 5 年度事業報告について

(2) 令和 5 年度利用状況について

事務局より、資料を用いて報告。

議長 少年団は前年踏襲ではなくテーマに基づいてその時できる活動を仕組んでもらっており素晴らしいと思う。

委員 ここではデジタル機器から離れたことができる。親と離れて仲間と協力して過ごすという自然の家での体験がますます重要になってくると思う。

委員 定員を超える申込みあるとのこと、さらに内容を良くしていただければ学校としてもありがたいと思う。子供たちがどのように生きる力を身につけていくのかということについて、他者や自然と触れ合うという点で少年団は良い活動をしていると評価している。

委員 子供の時の自然体験はとても必要と感じた。春にガールスカウト活動で利用したが、インストラクターがいなくて何をしたらいいかわからない、指導者は大切だと実感した。

委員 活動に参加できる子はいろいろな体験ができて成長している。自分たちが子供のころ

と違い今はあまり外に出ない子が多いが、なるべく多くの子供が少年団などの事業に参加してもらえると良いと思う。

(3) 令和6年度運営方針（案）について

事務局より、資料を用いて説明。

議長 色々な活動を見直し進化して、また外部団体との連携など創意工夫して拡大していくことは素晴らしいと感じた。

(4) 令和6年度事業計画（案）について

(5) 令和6年度利用予定について

事務局より、資料を用いて説明。

委員 サマーキャンプやウィンターキャンプが中学生の参加が少ないがどのように募集しているのか。

事務局 年間の主催事業のチラシを小学校には配布しているが中学校には配布していない。中学生への周知は市報・ホームページのみである。

委員 市の部活動の地域移行の取り組みで、様々な体験をしてもらう考えもあり写真や茶道なども案内が来ている。中学生は日曜日には部活動を行わないことにしており、日曜だけ参加できる事業を検討してもらえれば。

教育部長 中学校の部活動について文部科学省で徐々に地域と連携し移行していこう動きがある。それは教員の働き方の問題や少子化で学校の規模によっては限られた部活しかないといったなか、一方では子供に多様な選択肢を与えるべきとの考え方もあり、他校と一緒に部活動を行うことや茶道や華道など市全体で一つの部を作り体験できるようにするといった試みを山形市で進めている。今は休日の部活動をそのような形にしていき、休日の部活動を学校で行わず地域や市全体の受け皿に移行していく考えで様々なモデル事業を展開しているところ。多様な選択肢の中には自然にかかわる活動もあり得るため、安全に活動できる少年自然の家も自然体験学習の受け皿として検討していきたい。

(6) 山形市少年自然の家の今後のあり方の検討について

教育企画課より、資料を用いて説明。

議長 12月に公表された今後のありかたはホームページに掲載されているのか

教育企画課 掲載されている。

議長 市民の方の認知はあまりないかと思う。市民に開かれた決定過程で進めてもらいたい。

委員 自分に何ができるか考えると、山形昆虫同好会の会員が高齢化で昆虫標本の処分が増えており、その受け入れのため3年前に1200箱入る収蔵庫を作ったがもう800箱埋まってしまった。貴重なものも多くあり会として展示会開催などに活用したいと考えており、こちらでも活用してもらえればと思う。

議長 コンセプトのキーワードの中に「学び」ということもある。子供の施設というイメージからの脱皮、大人の学びの場にもつながっていくのではないか。

委員 活動の視察では子供の姿を見て楽しく思った。本来の子供たちのあるべき姿かと感じた。コロナで色々制限され、PTA活動もなかなか元に戻らない。少年自然の家は大事な施設と感じており、中学生にももっと活用してもらいたい施設である。今後、子供から大人までが利用できる施設にしていってほしい。

委員 こんにゃく道場の販売、就労支援をしていることは良いことと思う。

今後のあり方での移行のスパンはどのくらいで考えているのか。

教育部長　　3月中旬に今後のあり方が決定し基本構想（案）となる。基本構想として施設の
名前から「少年」を取り「山形市自然の家」としたいと考えている。学校教育の機能は残し
ながら、より幅広い季節に利用率を上げて市民にもっと自然に親しんでもらうこと、より幅
広い年代の方に利用してもらおう施設とするよう、今後議会にも説明しリノベーションを行っ
ていきたい考えである。この基本構想（案）を公表し意見をいただいて6月に基本構想を
決定する。その後の施設改修などで民間事業者の力を借りて実施できないかも検討していく。
アイデアを広く募り行っていくため、こんなことを行いたいということはあるが、具体的
な内容は定まっていない。基本構想から基本計画へと内容を具体化していき最終的にリノー
ベーションに進んでいく。来年度は検討を続け、事業者との協議を行い早ければ7年度に設計、
改修に入り一部でもオープンできればという想定で考えている。

今後も機会をとらえて状況の報告や意見をいただきたいと考えておりよろしく願ひし
たい。

委員　　地元の雇用場となっていることありがたい。今後のあり方の中でも地元の活用が入
っており今後もよろしく願ひしたい。自然があるだけでは人に伝わらない。少年自然の家
でコーディネーターの役割を担ってもらいありがたい。今後イノシシやクマが増えてきて山
と里山の境界が分からなくなっている。子供の時から山と里山の大切さを自然の中で教
えていく場所になってもらえればありがたい。

(7) その他
特になし

6 閉会